

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

2021年9月9日

陳 述 書

大阪地方裁判所 御中

氏 名 川田 人志

1 自己紹介

私は、「結婚の自由をすべての人に」訴訟の原告である川田有希の父です。昭和28年生まれの現在67歳です。香川県丸亀市で、妻の可子（よりこ）と二人で暮らしています。現在は養蜂をしています。

私たちには、有希と、有希の3つ上の娘あすかがいます。あすかは、夫と高校生と中学生の娘とともに、滋賀県内で暮らしています。

2 昭全君との関係を知るまで

- (1) 有希は幼い頃から活発で、ゴソゴソ、バタバタした子でした。

風来坊なところがあり、大学生にもなると、大学に住み着いて帰って来なかったり、イタリアに旅行にいたり、あちこち出歩いて、自由にしていました。若いときこそ好きなようにしたらいい、外に出なかつたら得るものもないだろうと思い、好きにさせていました。

- (2) 有希が同性愛者であると知ったのがいつだったのか、正直よく覚えていません。有希が高校生の頃に妻にカミングアウトしたそうですが、あまり記憶にありません。確かに、妻から有希が同性愛者であることを聞いたような気もしますが、妻が、深刻にならないよう上手く伝えてくれたのだと思います。私の認識としては、いつからだったか、なんとなく知っている、そんな感じだったと思います。そして、昭全君と交際していることを知って、改めて、有希が同性愛者であることを確認したような気がします。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

- (3) 有希は、大学卒業後、不動産会社に就職し岡山に住んでいましたが、会社を辞めて香川に戻ってきて間もなく、三豊市にある昭全君のところに住むようになりました。そのことは知っていて、家のリビングには、昭全君が名前と住所を書いてくれたメモが貼ってありました。有希は風来坊でしたし、大人なので、どこで誰と住んでいようとあまり気にはなりませんでした。

まもなく、妻が、しばしば二人を呼んで、4人で食事をするようになりました。妻から、なんとなしに、二人が交際しているということを知らされたように思います。妻は、何事もあまり深刻に捉えず、あつけらかんとした人なので、上手く私に伝えてくれたのではないかと思います。

4人で、蛍を見にいったことがありました。そのときの二人の様子を見て、ああ二人は確かにつき合っているんだな、と納得したのを覚えています。

二人がつき合っていると知った当初は、正直、あまり良い気持ちはしなかったのですが、考え方は色々あるから仕方ないか、など思っていました。また、有希は当時まだ22歳と若かったので、一過性のものかもしれないと思い、様子をみていたところもありました。

3 有希、昭全君との家族関係

- (1) 二人が付き合い始めてから今まで、ずっと、二人は三豊市に住み、私たち夫婦は丸亀市に住んでいます。車で30分くらいの距離です。

二人は本当に頻繁に我が家へやってきて、4人で食事をしています。4人で高知等に遊びにいったりもしました。私たちはお酒が好きなのですが、外でお酒を飲んでも昭全君がハンドルキーパーになってくれるのでいつも安心です。

今は新型コロナウイルス感染症のため難しいですが、正月などに滋賀県に住んでいる娘一家が来る際には、二人もやってきて、家族みんなで食事をしたりします。

- (2) 有希が、2011年から2012年にかけて、一年数ヶ月イギリスに住んで

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

いたことがありました。

その間も、妻が昭全君を家に呼び、よく三人で食事をしました。イギリスにいる有希を同じように心配する同志のような感じで、それぞれが有希から聞いた有希の近況を話題にするなどして、楽しく食事をしていました。

有希は、ロンドンで体調を崩し、入院しました。私たち夫婦も昭全君も大変心配しました。かけていた保険で、家族がイギリスにいった有希を迎えに行くことができることになりました。法律上の家族は、私と妻でしたが、昭全君が有希のパートナーであり、昭全君も私たち同様有希のことを大変心配しておりましたので、昭全君もイギリスに連れて行ってやりたいと思いました。私が保険会社に交渉して、昭全君も保険でイギリスに同行できるようにしました。

私たち夫婦と昭全君の三人で、心配しながらイギリスに行き、ロンドンの病院で案外元気そうな有希の顔を見たときには、三人で大変ほっとしました。私たち夫婦と昭全君とでアパートの片付けをし、有希を日本に連れ帰りました。その帰路の道中、私が昭全君にきついことを言ってしまったことがあったのですが、その際、有希は、私のことを大変怒りました。私は、有希が昭全君のために怒る様子を見て、ああこの二人は本当に仲が良いんだな、と思いました。

この有希のイギリスの一件で、私は、二人のパートナーとしての関係性を、確定的なものとして感じました。

- (3) 2014年には、二人がラブラドゥードルという犬種の「つぶ」を飼い始めました。本当に愛らしくてお利口で、可愛い子です(つぶがあまりに可愛いので、その後私たちはつぶの子を「かき」と名付けて飼っています)。

私は、二人が幼いつぶを迎え、本当に自分たちの子どものように愛し、育てている様子を見て、二人が将来子どもを持つことがあっていいのではないかと、そう思いました。二人のうちどちらかは先に死ぬのですし、老後、寂しい思いをするかもしれません。私たちに有希や昭全君のような家族がいるのと同じように、頼れる身内を持ててもいいのではないかと、そう思いました。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

私は、二人に、将来養子を迎えるということも考えてはどうか、と提案しました。

有希は、法律婚ができないと特別養子縁組などもできない、自分たちは結婚できないので無理なんだ、といい、二人は、養子を迎えることを初めから諦めているような口ぶりでした。

しかし、普通の男女の夫婦であっても、子どもが欲しくてもできなければ養子を迎えるでしょう。二人も、男女のカップルと何も変わりません。男女の夫婦が使える制度を、二人が使えないのはおかしいです。海外では同性婚もあり、養子を迎えている同性カップルはいくらでもいます。また、将来のために前を向いて、目標を持って進んでいかなければ何事も変わりません。二人には、養子を迎えることも最初から諦めるのではなく、将来の目標にするくらいの気持ちで活動してほしいと思います。二人で共通する将来の目的があれば、二人の絆も深まると思います。

- (4) 私が昭全君のご両親と初めてあったのは、2017年7月のことでした。二人が同居を始めたのが2008年でしたから、だいぶ時間が経ってからのことでした。

随分前から、昭全君のお母さんと私の妻は、LINEでやりとりしたりお茶したりしていました。母親同士はすぐに意気投合したようで、妻は昭全君のお母さんのことを「あさみさん」と下の名前呼び、仲良くしている様子でした。

私は、昭全君から、カミングアウトをした際、はじめはお父さんから勘当されたなどのことを聞いていました。結婚すれば、親同士の付き合いもできてきます。片方の親が関係に反対していれば、トラブルが起きるかもしれません。同性同士だからといって変わりません。私は、昭全君のご家庭のことを、密かにずっと心配していました。

昭全君のお父さんがなかなか簡単には二人を受け入れられなかった気持ちも分かりました。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

私は、昔から、大阪や東京で様々な仕事に就き、音楽がやりたくて上京し、東京では芸能プロダクションでマネージャーをしていた時期などもあったことから、色々な世界を見知っており、同性愛者についても見知っています。また、若い頃、親からデザイナースクールへの進学を反対されて悔しい思いをしたこともあり、子どもには、【本人の考えで、本人の生きたいように、自由に生きたらええ】とっていました。そのような背景があり、私はあまり抵抗なく有希が同性愛者であることや二人の関係を受け入れることができました。

他方、昭全君のお父さんは、私よりも世代が上なうえ、ずっと地元で生まれ育ち、生活してきた、職人氣質の人です。同性愛者など見たことも聞いたこともなかったと思います。長男だったら結婚して子どもを持って家を継ぐのが当然、というなかで生きてきたわけですから、突然同性愛だと言われても全然理解できなかつたと思います。世間体も気にしたと思います。

しかし、その後、二人から、昭全君のご両親と信州に旅行に行った話などを聞くようになりました。何とかお父さんに二人の関係を認めてもらえるようになったことを知り、ああ、やっと向こうの家族も二人を認めてくれた、これだったら二人はこれからもやっていける、ととても安心しました。

2017年7月、川田中商会でやったジャズのイベントで、初めて昭全君に親御さんを紹介されました。そのとき妻は同行していませんでしたので、私と昭全君のご両親とで挨拶をした形でした。その後も、昭全君のご両親は、私が経営していたコンビニエンスストアでおせち料理を予約注文してくださったりしていましたが、2019年、初めて、昭全君と有希、昭全君のご両親、私たち夫婦で揃って会食をしました。

こうして、双方の両親で正式に御挨拶でき、お互い家族ぐるみの付き合いになることができました。二人が交際を開始して11年、長い道のりでした。私も、二人が付き合い始めた当初は、有希も若かったですし、一時的なものかも知れないとっていました。二人が年月を積み重ねてきたことで、周りにも

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

認められ、こうして双方の家族で、和やかに食事をできるまでになったのだと思います。

4 パートナーシップ宣誓制度について

2020年1月、二人は三豊市でパートナーシップ宣誓をしました。三豊市が四国初のパートナーシップ宣誓制度を導入することは、二人から聞いていました。

宣誓したと聞いて、一安心しました。一歩前進、そう思いました。

これまでは、二人は長らくパートナーの関係にありましたが、社会の制度の枠のなかには入れてもらえない、そんな状況でした。それが、パートナーシップ宣誓制度という、法的には効果がないにせよ、おおやけの、自治体が認める制度により、二人の関係が初めて「形」のあるものとして認められたように感じました。

また、おおやけの権威が制度として同性カップルを認めることで、世間の人も、性的少数者の人権に関する流れが広がってきていることを認識すると思いました。より二人が暮らしやすい社会になる、そう思いました。

5 同性婚がないことについて

このように、私にとって昭全君はれっきとした息子のパートナーであり、同性婚を実現したいという気持はよく分かります。

現在は、二人は、婚姻制度に伴う色々な恩恵を受けることができません。何の保障も受けられず、守られないシーンが今後、出てくると思います。親として、子どもの将来が大変心配です。

同性婚制度があれば、二人の生活は全く違うものになると思います。

同じ制度を、使うことができる人と、使うことができない人がいるのはおかしいです。同性カップルだからといって、その関係性は異性カップルと何ら変わりません。同じように税金も払っています。同性カップルだというだけで結婚できないのは、平等でないと思います。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

裁判所におかれては、同性カップルも異性カップルと何ら変わらない家族であるということをしっかり受け止め、二人が将来に希望を持てる、安心して暮らしているよう、同性カップルも平等に扱う判決をしていただけるよう、お願いします。

以 上